令和５年度　学校評価報告書

大村市立竹松小学校

１　教育目標

夢を持ち　創造性に富んだ　心豊かで　明るく元気な　竹松っ子の育成

２　学校経営方針

２１世紀を生き抜く資質・能力の育成を目指し、日本国憲法、教育基本法等の趣旨、長崎県及び大村市の教育方針を基本とする。

教育者としての崇高な使命を自覚し、児童・学校・地域の実態に即し、人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた児童の育成に努める。

３　重点努力目標

【めざす児童像】「やさしく」　明るくさわやかで、思いやりのある子供
「かしこく」　よく見聴きし、進んで学ぶ子供
「たくましく」　心身ともに健康で、粘り強い子供

【めざす学校像】●明るく活気がある学校　●美しく・安全に学べる学校
●マナー・ルールを大切にする学校　●地域・保護者とつながる学校

【めざす教師像】●明るく元気な教師　●子供に寄り添う教師
●自らを律して学び、子供の可能性を拓く教師
●保護者・地域と手を取り合い、心を重ねる教師

４　アンケート・自己評価

領域	項　目	質　問　内　容	アンケート結果（肯定的割合　%）			分析及び改善策
			児童生徒	保護者	教職員	
学校運営	目指す児童像	子供たちは、学校目標「やさしく、かしこく、たくましく」に近づいていますか。	83%	75%	91%	・不登校対策やいじめ防止及び問題行動発生後の対応等について、児童及び保護者の評価と教職員の評価に差がある。問題行動に係る調査や指導、経過観察に時間を要することが原因と思われる。対応には慎重をきすため、関係児童や保護者に対して経過報告や指導・支援の継続、関係機関との連携を図って解決・改善に繋げていく。 ・子供会への加入率の低下や社会体育活動の活発化により児童の保護者も休みが少ない状態である。その中でＰＴＡ活動等への協力を促す際に、行事の精選や行事の組み合わせを行うことで、参加しやすい環境づくりが必要である。
	教育相談	教師（学校）は、子供や保護者の相談、質問に丁寧に対応していますか。	88%	84%	98%	
	ＰＴＡ活動等	ＰＴＡ活動や地域の行事に協力していますか。	30%	52%	68%	
	いじめ対策	教師（学校）は、いじめの未然防止や早期発見・早期解決に努めていますか。	82%	83%	97%	
	不登校対策	教師（学校）は、不登校児またはその保護者に寄り添いながら対応していますか。	66%	89%	93%	
学力の保障	学習指導	教師は、分かりやすい授業に努めていますか。	90%	93%	98%	・分かりやすい授業や家庭学習は９割を超え高評価である。今後さらに高まるように研修と家庭学習の手引きの充実を図る。 ・学力調査の結果の活用が十分ではない。児童及び保護者に資料を説明する機会を設けて、課題改善に向けた学習指導の仕方や家庭学習を行ううえでの留意事項を共有する。
	家庭学習	子供は毎日、家庭学習に取り組んでいますか。	92%	84%	95%	
	ＩＣＴ活用	教師は、授業の中でＩＣＴを活用していますか。	86%	90%	80%	
	学力調査活用	学力調査の結果を学習指導や家庭学習に活用していますか。	70%	46%	72%	

心の教育の充実	道徳教育	教師（学校）は、道徳の授業を中心として心の教育に努めていますか。	90%	87%	93%	・「やさしい子」の育成に向けて、道徳の授業や人権集会などの行事を通して心を耕すことはできている。しかし、いじめや言葉によるからかいがあり、実践力を育むことに課題が残る。今後も問題行動の未然防止や早期発見、早期解決、事後の見守りを強化し、学校が安心安全な居場所となるように組織的な対応をしていく。 ・挨拶については、自分から進んで行う子供が少ないため教職員の評価が低くなっている。挨拶を返す児童は増加傾向にあるため、挨拶の意義を発達段階に応じて理解させながら家庭とも連携して改善を図る。 ・読書については、貸出冊数が７万冊（１月中旬現在）を超えている。年間１０万冊の目標達成に向けて長期休業中の貸出冊数や家読の回数を増やしていくことが必要である。
	学校生活	子供は楽しんで、学校生活を送っていますか。	82%	89%	96%	
	礼儀	子供は、挨拶（会釈を含む）を気持ちよくしていますか。	81%	86%	66%	
	人権教育	教師（学校）は人権について、授業や学校生活を通して指導していますか。	90%	93%	98%	
	図書館教育	子供たちの読書の機会を確保していますか。	75%	49%	86%	
健康・安全教育の充実	体力増進	子供の体力増進のために外遊びなどを励行していますか。	75%	69%	75%	・アフターコロナで昼休みに外で遊んでいる児童は増えている。また、体育の授業を見学する児童も減っているので徐々にではあるが体力増進は期待できる。ただ、運動場の広さやコロナ禍の時の影響からか室内で過ごす児童がまだ多い状況である。 ・週末のテレビやゲームの影響で生活のリズムが乱れている児童がいる。また、早起きができずに朝ご飯を食べていない児童が時折いて、元気のなさや体調不良で学校生活に支障をきたした。該当児童の改善に向けては、保護者に学校での様子を伝えて、生活リズムを整えるための連携を継続していく。 ・地域でのいたずらや学校生活上のルール（授業中や廊下歩行など）を守らない行動が多々あった。都度の指導と生活アンケートの定期的な実施などに取り組み、規範意識と実践力の向上に務める。
	健康教育	子供は、早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身に付いていますか。	79%	83%	71%	
	安全教育	子供は、生活・安全のきまりを守って生活していますか。	92%	95%	76%	
郷土教育の充実	伝統継承	子供は、生活・総合で学習する伝統芸能や特産物の栽培などを楽しんでいますか。	78%	65%	95%	・総合的な学習の時間や創立150周年記念事業への取組の中で地域人材の有効活用を図ったことで、効果的な教育活動が展開できた。しかし、目的を理解した主体的な学習になっていないことが児童と教師の評価の差となって表れているように感じる。今後は、児童が主体的に学ぶための教材の提供の工夫や学習計画の立て方等をさらに工夫して楽しく学ぶ環境づくりや郷土を愛する心の育成に繋げる。
	郷土愛	ふるさとに関する学習を通して、お子様に地域を愛する、大切にする気持ちが育っていると思いますか。	77%	80%	79%	

社会の変化への対応	国際理解教育	国際理解のため、学習の中に海外の事柄を取り入れて指導していますか。	64%	55%	67%	・児童の将来はさらに国際化が進むため、外国の方々と気軽にコミュニケーションを取ることができる力を育てておくことは重要なことである。外国語の授業だけでなくその他の教科でも国際的な文化などを取り上げたり、ＡＬＴとふれあう機会を増やしたり、海外の情報が掲載されている掲示物を見たりして児童が世界を身近に感じることができるような学習指導や環境づくりの工夫に取り組む。
	ＡＬＴの活用	外国語の授業で積極的にＡＬＴを活用していますか。	87%	83%	78%	

５　自己評価のまとめ（成果・課題・対策等）

【成果】
○目指す児童像「かしこい子」の実現に向けて、校内研究を中心に各種学力検査の結果から児童の実態を分析し、学力向上に向けた改善策を学校全体で共有しながら分かりやすい授業の構築や家庭学習の充実に取り組むことができた。その結果、教師の指導力の向上や児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着が高まっている。
○目指す児童像「やさしい子」の実現に向けて、道徳の授業を中心に学校教育活動全体を通して、児童の道徳的心情・実践力の育成や人権教育の推進を図ってきた。その結果、友だちに対してやさしく接する子供や進んでゴミを拾う美化意識の高い子供の姿を見ることができた。

【課題】
①ＰＴＡ活動や地域行事への参加が消極的である。
②不登校傾向の児童が１０名程度おり、保健室などの別室登校はできているが教室には入れない。
③学力検査の結果の活用度が低い。
④元気に外で遊んだり、早寝・早起き・朝ご飯の習慣化がなされていない子供が３割程度いる。
⑤国際理解教育の推進

【対策】
①子供会への加入率の低下や社会体育活動の活発化により児童の保護者も休みが少ない状態である。その中でＰＴＡ活動等への協力を促す際に、行事の精選や行事の組み合わせを行うなどして、参加しやすい環境づくりをＰＴＡ役員と取り組む。
②不登校の原因を明確にし、その改善に向けて児童や保護者と方策を共に考え共有・実践していく。必要に応じてＳＣや心の相談員・ＳＳＷ・医療機関とも連携をしていく。また、当該児童の長所を伸ばす教育活動に重点を置いて自信をつけさせ、登校や集団生活への意欲付けを図る。
③児童及び保護者に資料を説明する機会を設けて、課題改善に向けた学習指導の仕方や家庭学習を行ううえでの留意事項を共有する。
④運動場の広さやコロナ禍の時の影響からか室内で過ごすことを好む児童がまだ多い状況である。しかし、アフターコロナで昼休みに外で遊んでいる児童は増えている。また、体育の授業を見学する児童も減っているので徐々にではあるが体力増進は期待できる。今後、児童と一緒に教師も外で遊んだり、体育の授業で遊具を使ったサーキット・トレーニングやストレッチ運動を積極的に取り組んだりして課題改善に努める。
　週末のテレビやゲームの影響で生活のリズムが乱れている児童がいる。また、早起きができずに朝ご飯を食べていない児童が時折いて、元気のなさや体調不良で学校生活に支障をきたした。該当児童の改善に向けては、保護者に学校での様子を伝えて、生活リズムを整えるための連携を継続していく。
⑤外国語の授業だけでなくその他の教科でも国際的な文化などを取り上げたり、ＡＬＴとふれあう機会を増やしたり、海外の情報が掲載されている掲示物を見たりして児童が世界を身近に感じることができるような学習指導や環境づくりの工夫に取り組む。

６　学校関係者評価

○朝の立哨指導でも挨拶をする子供としない子供がいる。しない子供は，どんなに声をかけても徹底してしない。挨拶は相手と交友するきっかけになるコミュニケーションツールの一つなので，学校・学級で挨拶の意義を教えながら挨拶を広げていってほしい。
○整理整頓や右側歩行など学校や社会のマナー，ルールを子供の印象や記憶に残るように漫画的な要素のあるチラシやポスターを作成して呼び掛けるなど工夫したらどうか。
○各町内会では子供会が解散して，保護者及び子供と地域のつながりが希薄になっている。これまでのように子供会を町内会で維持していくのは困難なので，学校や教育委員会，健全育成協議会などが中心となって，今後の子供会の在り方等について提案していくのもよいのではないか。
○この学校支援会議では地域の声を聞くことはできるが，保護者の意見を聞く場がない。保護者と地域の方々とが意見交換や触れ合う場があるとよい。
○自己肯定感が低い子供たちが多いという現実を知り，挨拶や返事ができるとか靴やスリッパ並べなど，簡単なことやほんの些細なことでも褒めてあげる，認めてあげる環境を大人が作っていくことが大切ではないだろうか。
○自己肯定感については，子供だけでなく保護者も低いと思う。保護者の自己肯定感を高めるためにも保護者の学びの場として地域の方とつながって子育てについて話をしたりする場があったらと思う。

７　対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

○子供と教師が連携して，整理整頓や右側歩行など学校や社会のマナー，ルールを子供の印象や記憶に残るように漫画的な要素のあるチラシやポスターを作成して呼び掛けるなど工夫に取り組む。 ○地域行事やＰＴＡ行事に学級レクレーションとして参加するなど工夫することにより，子供及び保護者が地域の方々とつながる機会を多くもつように提案していきたい。 ○学校支援会議に参加する保護者の方（ＰＴＡ本部役員や学級理事など）を増やして，地域と保護者が意見交換する場を設ける。

※　「４　アンケート・自己評価」の「項目」「質問内容」の欄は、大村市教育方針等を受けて、学校独自の「項目」を設定し「質問内容」を記入する。評価を受けない場合は「評価結果」の欄は斜線を引く。

※　アンケートは、４段階で回答するようにしているが、そのうち上位２段階を肯定的回答ととらえ、その割合を集計し計上する。